若越郷土研究　六十二巻一号

福井県における郷土史研究の動向

平成二十八年度分

本会事務局
福井県立図書館郷土資料班編

はじめに

福井県立図書館では、寄託資料である松平文庫の魅力を広く知ってもらおうと、年五、六回「松平文庫テーマ展」を開催している。平成二十八年十一～十二月に開催した「真田信繁はどのような最期を遂げたのか」展は、真田を討った西尾宗次の書簡を初めて紹介したものであったことから、大河ドラマの人気とも相まって大きな反響を呼び、ＮＨＫ全国ニュースにも取り上げられることとなった。

以下、平成二十八年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

一　歴史・自治体史・地域史・史跡調査報告書

勝山市は江戸時代の勝山の歴史を紹介する『ものがたり　かつやまの歴史　中』を発行した。越前市教育委員会は『越前市史　資料編８』を刊行、越前和紙の産地である五箇地区に残る明治期以降の和紙関係文書を中心にまとめた。大野市教育委員会が作成した小学生向け『結の故郷越前おおの歴史すごろく』は、大野市歴史博物館の開館三〇周年を記念して作られたもの。印牧邦雄氏は四〇年余り前に編纂した『芦原町史』のジュニア版ともいえる『あわらの歴史と文化』を出版した。南洋一郎氏は『一乗谷城の基礎的研究―中世山城の構造と変遷―』を出版、前編では県内の各城館の現状を、後編では南氏が今まで手がけた研究報告をまとめた労作。鹿内八千代氏は『ヲホト大王と越の古代』を出版し、ヲホト（継体）がなぜ大王までのぼりつめることができたかを論じている。

地域史も数多く出版された。福井市東郷公民館は四年かけて『越前東郷名所旧跡』をまとめた。福井市麻生津公民館は、地区の歴史や特色を四四枚の札に込め『麻生津ふるさとかるた』を完成させた。福井市清水西地区の公民館は同区の歴史や文化財などを紹介する『清水西地区の昔と今』を刊行した。福井新田塚郷土歴史研究会は市民感覚で埋もれた歴史を掘り起こす『ふるさと歴史発掘　第二巻』を発刊した。越前市しらやま振興会は一〇年かけて『ふるさと白山』をまとめ、コウノトリ放鳥など、合併以降の動きを収録している。山元摂氏らは『上吉野の記録　印内村の歴史』をまとめた。高尾察誠氏は『新田義貞公と時衆・称念寺』改訂版を発刊し、義貞の墓がかつては同寺の末寺にあったのではないかとの仮説を示している。南越前町上別所区は『上別所集落史すさのおの里』を発行した。「坂井町古文書の会」は、昨年に引き続き江戸時代の三国の豪商内田家

に関する『内田璞（すなお）家文書 家法録』を刊行、豪商の暮らしぶりをがうかがわせる一冊となった。三浦三博氏は郷土誌『滝谷村は綿々と今も』を発行し、江戸から昭和時代を中心に坂井市三国町滝谷の歴史や暮らしなどをまとめている。

主な発掘報告書には、『鷲塚遺跡』『杉谷遺跡』『小尉遺跡』（福井県埋蔵文化財調査センター）、『福井城跡19』『今市遺跡2』（福井市教育委員会）、『荒土町松田遺跡』（勝山市教育委員会）、『兜山北古墳・石田中遺跡』『今北山古墳群』（鯖江市教育委員会）、『興道寺廃寺発掘調査報告書』（美浜町教育委員会）などがある。

二　目録・人物・ガイドブック

みくに龍翔館が刊行した『内田璞家文書目録』は、江戸時代後期から明治前期にかけて三国湊を代表する豪商内田家から寄託された文書を調査したもの。

福井県文書館は『福井藩士履歴4』を刊行し、巻末には角鹿尚計氏による解説が寄せられている。福井県教育委員会は子どもたちに地域の魅力を伝えようと『ふるさと福井の先人一〇〇人』を作成した。福井県立こども歴史文化館は泰澄伝説をもとに紙芝居『泰澄ものがたり―白山を開く―』を刊行した。木下聡氏の編著で『若狭武田氏』（戎光祥出版）が出版され、若狭武田氏とその前身である安芸武田氏についての一三本の論考が収録された。瀧井一博氏は『渡邉洪基』（ミネルヴァ書房）を出版、旧武生市出身で帝国大学初代学長を務めた渡邉洪基に新たな光を当てる一冊となった。吉川博和氏は、中日新聞と日刊県民福井の長期連載を『ふくい湊町ブルース』としてまとめ、県内の個性的な港町の歴史や文化について書かれた三七話を収録した。

福井県は「ＺＥＮ（禅）」をコンセプトとした海外からの誘客活動の一環として、英語の高級パンフレット『ZEN, Alive. Fukui』を作製した。宮本数男氏は『ふるさと福井の山』を刊行、初心者から上級者向けの県内の二〇〇山をまとめている。

三　政治・経済・各分野団体史

南保勝氏が出版した『福井地域学―地方創生に向けて―』（晃洋書房）は、歴史、産業特性、県民生活など様々な面から分析整理し、福井の誇りを解き明かした一冊。中国との草の根交流に長年携わってきた酒井哲夫氏は、福井の日中友好について『近くて近い国へ』としてまとめた。

各分野団体史では、県立武生東高等学校『［福井県立］武生東高等学校三十年史』、県立ろう学校『［福井県立ろう学校］百年史』、県立坂井農業高等学校の百年史『歴史を刻んで一世紀』、福井工業高等専門学校『福井工業高等専門学校50年史』、あわら市波松小学校『あわら市波松小学校休校記念誌』、あわら市吉崎小学校『［あわら市］吉崎小学校記念誌』、福井県立美術館ボランティアの会『20年のあゆみ』、かすみが丘学園『創立50周年記念誌』、福井いきいき

会『福井いきいき会3年3か月の歩み』などが刊行された。

四　宗教・教育・民俗

関根達人氏らは『越前敦賀湊の中近世石造物』（弘前大学）を発行、二回目となる今回は敦賀市内の中近世墓標（一八七七基）に関する成果報告書である。道場研究会は県内各地に残る一〇〇カ所以上の「道場」の実態を九年かけて調べあげ、『道場さんを訪ねて―越前浄土真宗御門徒を支えた―』として発行した。

福井県教育委員会は、子どもたちに日本語の美しさやリズムに親しんでもらい、表現力を養ってもらおうと小中学生用に『古典音読・暗唱ノート』を作製した。牧井正人氏の『感じる力で人は、育つ』は、日本画家菱田春草が描いた屏風「落葉」の複製を使った一〇〇回を超える出前授業の奮闘記となっている。

御食国若狭おばま食文化館は、平成二十五年に小浜市が実施した「食と文化の基本調査」の結果をまとめ、『小浜市の伝統行事と食』として出版した。池田町が発行した『池田町の文化資源レッドデータ・ブック』は、野生生物のレッドデータ手法を拠りどころに、文化のレッドデータを手繰ろうとした一冊。美浜町佐田伝統文化保存会が発行した『繡き』は、神社の例大祭から納涼盆踊りまで、三〇の行事を豊富な写真で紹介している。松本孝三氏は『北陸の民俗伝承』（三弥井書店）に「若狭路の民間説話」と「民俗社会の中の西行―若狭・越前を中心に―」を収めた。須川建美氏は、県内で数多くまつられている「庚申」信仰について調査し、その成果を『健康と諸願成就を祈る庚申さん』にまとめた。松村誠一氏は、勝山左義長の歴史を『平成「勝山左義長」備忘録』として出版した。

「福井民俗の会」は活動が停滞していた会の再建を図ろうと、七年ぶりに機関誌『えちぜんわかさ』を刊行した。

五　自然

福井県は県内の野生動植物の絶滅危険度を分析した『改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物』を十二年ぶりに発刊した。鯖江印刷協同組合は設立三〇周年を記念して『レッサーパンダ写真集』を作成した。白崎重雄氏は、四〇数年間の「スミレ」研究の集大成として『福井県のスミレ』を発行した。飯田和質氏は越前町織田地区の三集落で見つけた草花や遺跡を紹介する『山里の散歩道』を発刊した。笹木進氏は湿地に絡む言い伝えや昔の出来事などを紹介する『聞き書き中池見今昔』を発行した。

六　工業・土木・建築・家政学

国京克巳建築設計工房は、福井県指定有形文化財に関する『本荘春日神社本殿修理工事報告書』をまとめた。小野一氏は『地方自治と脱原発　若狭湾の地域経済をめぐって』（社会評論社）を発行した。河野徳吉氏は『奉書紙の判元・商人史―内田吉左衛門―』を発

刊し、福井藩の懐を賄った豪商内田家の栄枯盛衰を中心にまとめている。青木捨夫氏が出版した『越廼・伝統の魚介さばき』は、四〇年前に氏が執筆しガリ版刷で作ったものの復刻版。

七　産業・芸術・文学

福井市教育委員会は『名勝養浩館（旧御泉水屋敷）庭園保存活用計画』および同概要版を作成した。全国北前船研究会は全国北前船セミナー開催三〇周年を記念して『北前船にかかる論考・考察集』を刊行した。

大野市が新成人向けに作製した写真集『大野へかえろう』は、日常の何気ない大野の風景を切り取った百枚の写真集。越前市教育委員会は『文化財からみる越前市の歴史文化図鑑』を発行した。長谷光城氏は『長谷光城作品集2』を刊行、二〇一一～二〇一六年までの作品を紹介。足立直紀氏『若狭路のみほとけ』（はがパレット）は、若狭一円の仏像を巡る旅をイラストで綴ったもの。山﨑貞子氏は『彫刻家　田嶋碩朗（たじませきろう）』（共同文化社）を出版、田嶋碩朗は北大クラーク像原型の作者である。しあわせスポーツ協会は『障がい者スポーツクラブ・サークル』を作製、県内全域を対象にした障がい者スポーツ団体の紹介冊子の発行は初めてのこと。

文学では、藤田宜永氏の小説『大雪物語』（講談社）が第五一回吉川英治文学賞に、荒川洋治氏の詩集『北山十八間戸』が第八回鮎川信夫賞に選ばれた。

八　歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。福井県文書館は「遺された言葉―最後に何を伝えたかったのか？―」「ふくい人はみた！異国災害　大事件」、福井県立歴史博物館は「城下町福井の町と人」「ふくいの婚礼」、福井県立若狭歴史博物館は「若狭のたから―知る・まもる・つなぐ―」「若狭と丹後をつなぐもの」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は「一乗谷と越前焼」、福井県立美術館は「岩佐又兵衛展」、福井市立郷土歴史博物館は「大坂の陣と福井藩」「福井の仏像」、敦賀市立博物館は特別展「大谷吉継と西軍の関ヶ原」をそれぞれ開催した。

おわりに

以上、福井県立図書館の郷土資料収集業務で把握できた情報を中心に、平成二十八年度の動向として紹介した。個人史や抜刷など割愛した資料、漏れた資料についてはお許しいただきたい。

なお、県立図書館ではこれまで、県内における郷土資料の出版状況や研究・調査の情報をまとめ、富山県郷土史会刊『郷土の文化』誌上に投稿してきた。平成二十九年三月刊の第四二輯をもって同誌が終刊する運びとなったため、平成二十八年度分以後は、本誌に発表の場をかえ、動向紹介を続けることとした。平成十八～二十七年度分については、福井県立図書館のウェブサイトでもＰＤＦで公開しているので、あわせて参照されたい。

（事務局　前田眞佐子）